

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

P.15参照

風水害(台風・大雨)のことを知ろう

警戒レベルと、そのときとるべき行動

警戒レベル	警戒レベル	警戒レベル	警戒レベル	警戒レベル
1	2	3	4	5
大雨になりそう	大雨注意報が出た!	大雨・洪水警報が出た!	土砂災害警戒情報が出た!	大雨特別警報が出た!
大雨になった場合を想定して、心構えをする	どう避難するか、確認する	避難に待機がかかる人は、避難を開始する	安全な場所へ避難する	すぐに命を守る避難行動を行う!

住んでいる地域や家でこんな被害が出るよ!



【児童考察】

自分たちの住んでる地域ではどのような危険が起こりうるのか、過去の例を見ながら想定させる。

《風水害による具体例》

◎2018年7月豪雨災害

西日本を中心に発生した豪雨により、広範囲で河川氾濫や土砂災害が発生し、多数の死傷者や行方不明者が出た。

◎2019年台風15号

関東地方を中心に発生した台風により、強風による屋根の飛散、樹木や電柱の転倒、内水氾濫などの被害が発生。

◎2021年台風9号

九州地方を中心に発生した台風により、大雨による河川氾濫や土砂災害、内水氾濫、強風による倒木や停電などの被害が発生。

※参照：東京都防災ホームページ

【ハザードマップのミニ知識】

ハザードマップは、自然災害が発生した場合に被害が想定されるエリアや避難場所などが示された地図であり、8種類ある。

その中でも洪水ハザードマップとは洪水が発生した場合に浸水が予想されるエリアが、浸水の深さごとに色分けされている。河川に近いエリアは被害予測が大きくなることが多い。危険な地域には黄と緑で示されており、その地域に住んでいる人は大雨の際には注意が必要。

※参照：国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

風水害に備えよう!

台風や大雨は、事前にくることがわかるから、前もって備えておくことが大事だよ!

横浜市が開く避難場所



どこを避難場所として開くかは、災害の大きさや状況によって違ってくるんだ。風水害時に自分が住んでいる区のホームページやテレビなどで確認するようにしよう。

ハザードマップを使って、住んでいる地域が

どれだけ危険か確認しよう!

おうちや通学路、学校など、身近な場所に危険がないかを今のうちから見ておこう。



★ハザードマップは区役所で配布しているよ!!



■家が安全な場合は、家に待機しよう  
必ずしも避難場所へ行く必要はないよ。

■家の2階が安全な場合は、家の2階へ避難または、近くの高い建物へ避難

■安全な場所への避難  
(横浜市が開く避難場所、安全な親戚の家など)

風水害が起きたときの避難行動のポイント



【風水害時の避難場所の説明】

風水害の場合、必ずしも地震の際の避難所である地域防災拠点(小・中学校)が開設されるわけではない。地区センター、自治会庁内会館等が開設される場合もある。そのため、避難する場合は、必ず市や居住している区役所のホームページで開設されている避難場所を確認する。

※参照：横浜市「風水害時に開設される避難場所について」

P.15参照